

- 目次 -

- 1 第40号発行に添えて センター長挨拶
- 2~3 密着リハ紹介 北部病院様
- 4~5 地域リハ連携ミーティング開催報告
- 6~7 研修会報告(人材育成事業研修)・編集後記

熊本  
地域リハビリテーション  
広域支援センターNEWS  
- 略称・地域リハニュース -

発行日:2025年03月  
発行元:熊本地域リハビリテーション広域支援センター熊本機能病院  
お問い合わせ:熊本機能病院内  
〒860-8518 熊本市北区山室6丁目8-1  
TEL:096-341-0511 FAX:096-341-0512  
Email:kc-chiikireha@juryo.or.jp

第40号発行に添えて ~ご挨拶~

皆さま、こんにちは。昨年の夏は、各地で猛暑日が続き熱中症で多くの方が医療機関に救急搬送されました。一方で、この冬は地域によって大雪が降り、屋根の雪おろし作業中の高齢者による転落事故が報道されるなど、異常気象が私たちの日常生活に大きな影響を及ぼしていることを実感させられています。このニュースレターが発刊される頃には、桜が開花を迎えていることでしょうか。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

当センターでは、今年度の事業として、地域連携ミーティングと研修会を開催いたしました。昨年11月に初めて開催しました地域連携ミーティングは、医療関係者やリハビリ専門職、市町村等の関係者が集まり、地域リハビリテーション活動への理解を深め、連携を強化することを目的としています。このミーティングは、地域リハビリテーション広域支援センターの研修会の一環として、今年度より熊本県内全圏域で開催されており、熊本市北区では介護予防に関する現状と今後の展望についてと実践的な取り組みを紹介していただきました。

さらに、今年3月にはオーラルフレイル予防をテーマに研修会を開催しました。オーラルフレイルは、口腔機能の低下によって起こる健康問題で、食事や会話に支障をきたすだけでなく、全身の健康にも悪影響を及ぼす可能性があります。この予防は、高齢者のQOL(生活の質)の向上にとって非常に重要です。研修会では、歯科衛生士の専門的な講義を通じて、日常生活での習慣の見直し、適切な口腔ケアを心掛けることでオーラルフレイルの進行を防ぐ具体的な方法を学んでいただきました。

今後も私どもは、リハビリテーションの観点から地域の皆さまを支援するために尽力してまいります。引き続き、ご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

地域リハビリテーション広域支援センター熊本機能病院センター長 渡邊 進

## 地域密着リハビリテーションセンター 北部病院

熊本市北区管内の地域密着リハセンター7施設様に活動の様子を伺っておりますこのシリーズ、第6回は地域密着リハビリテーションセンター 北部病院の城様に御寄稿を頂きました。

今回は、北部病院の地域密着リハビリテーションの活動について紹介させていただきます。

当院は、昭和54年の開院以来、地域に根付いた医療と介護サービスに取り組んでおり、2019年2月に地域包括ケア病床を導入しました。地域の皆様の多様な医療ニーズに応える体制を整え安心できる”かかりつけ医”として、また、信頼いただける”専門医”として、これからも患者様に満足いただけるよう心を込めて、急性期から慢性期まで対応できる包括的な医療を行っています。さらに当院の大きな特徴としまして神経難病患者様に対し、他職種連携による難病サポートチームがあります。患者様それぞれに合った看護や介護の方法、生活環境の提案、不安の傾聴などの支援について、入院・外来スタッフで連携を取りながら行っています。（定期的に「ほくピーカフェ」～患者と家族の集い～を行っています。）リハビリテーション部としましては、パーキンソン病患者様に対する短期集中トレーニングを行っておりLSVT BIG 認定のPT、OT 5名、LSVT LOUD 認定のST 2名が中心となりADL、基本動作、歩行、発話能力等の改善を目的に実施しています。

さて、当院での地域密着リハビリテーションセンターでの活動ですが、リハビリスタッフの派遣による地域の健康サロン等の活動支援を行っています。現在では、定期的に「十王元気サロン」「東梶尾健康サロン」「葉山自由ヶ丘ふれあいサロン」、不定期で「西梶尾ふれあいサロン」「楠古閑ふれあいサロン」の支援をしています。主な活動内容としては、体力測定、運動の提案・指導、質疑応答等です。参加される方々はとても熱心でご自宅で自立した生活を送るために必要な運動や痛みについてなど積極的に質問され、こちらが圧倒されるほどです。毎回、質問に答えるための準備もしっかり行っています。その他には地域包括ケアシステムの構築を目的に運営されている「自立支援型地域ケア会議」「自立支援型ケアプラン作成リハ派遣事業」にも参加しています。

今後も地域活動の支援、高齢者の体力向上のための運動の重要性の啓発など、さらには当院のビジョンにもある地域に根付いた医療と介護サービス、皆様の多様なニーズに応える一環として地域密着リハビリテーションセンターの活動を続けていきたいと思っております。

写真は当センターが2ヶ月に1回支援をしています「十王元気サロン」の活動風景です。当サロンは、毎週木曜、世話役2名の方が中心となり、ラジオ体操・いきいき百歳体操などを行い体力の維持・向上を図っておられます。その他、世話役の方が得られた情報を参加者と共有されるなど、とても熱心に活動されています。



医療法人社団 原武会 北部病院 地域密着リハビリテーションセンター

理学療法士 城 一博

## 地域連携ミーティング 開催報告

2024年11月21日（木）に初めて開催しました「2024年度熊本市北区地域連携ミーティング」について報告します。今回のミーティングでは、2つの情報提供と1つの活動報告で開催しました。

まず、1つ目の情報提供として「介護予防の取り組みの現状と今後について」と題し、熊本市北区役所保健福祉部福祉課主査の村田扶美枝様にご講演いただきました。

熊本市北区の地域における  
介護予防の取り組みと今後について

北区役所 福祉課  
高齢福祉班 地域包括支援チーム

総合事業  
北区 これまでの取り組み (実績一部)

1. 介護予防普及啓発活動
2. 短期集中予防サービス
3. くまもと元気くらぶ事業
4. 地域リハビリテーション支援事業
5. 介護予防サポーター養成・活動支援

介護予防事業  
今後の取り組み

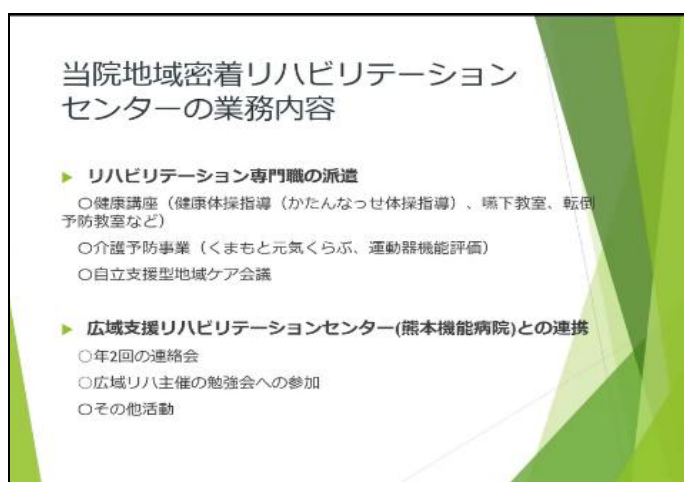
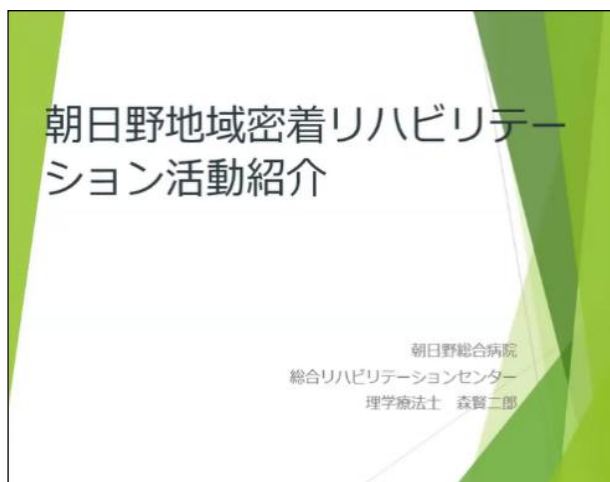
- 専門職等の介入を通じて、自立した日常生活に向けた取り組みを推進
- 身近な場所で気軽に参加できるような「通いの場」の創設、活動を支援
- 高齢者等を地域で支える「人づくり」生きがいがづくりの支援

講演では、熊本市の状況（高齢者人口、高齢化率の推移）、熊本市北区の地域課題、第3期北区地域包括ケアシステム推進方針（案）、介護予防事業の取り組み状況と今後の取り組みといった内容をお話いただきました。

2つ目の情報提供として、地域連携ミーティングについて当センター事務局の東より紹介をしました。地域連携ミーティングは、医療関係者やリハ専門職、市町村等の関係者が地域リハビリテーション活動に対する理解を深め連携を強化することを目的としています。このミーティングは、地域リハビリテーション広域支援センターの研修会のひとつとして令和6年度より熊本県下全圏域で開催される運びとなった事業です。

最後に活動報告として、地域密着リハセンター朝日野総合病院の森賢二郎様(理学療法士)より実践的な取り組みの紹介をしていただきました。

地域における実践的な活動として、健康講座(健康体操として「かたんなっせ体操」の指導、嚥下教室、転倒予防教室など)、介護予防事業(くまもと元気くらぶ、運動器機能評価)、自立支援型地域ケア会議へのリハビリテーション専門職の派遣についてお話しいただきました。eスポーツの取り組みも行われており、北区における先駆的な取り組みをご紹介いただきました。



次年度以降も、地域連携ミーティングの目的を達成できるよう開催していきますので、皆さまからのご意見、ご提案をお待ちしています。

地域リハビリテーション広域支援センター熊本機能病院  
事務局担当：東 利雄 (PT)

## 地域で実践的に関わる事ができる人材育成事業に参加して

日時 令和7年1月31日（金）、令和7年2月7日（金）

熊本市中央区にあるシアーズホーム夢ホールで、2日間で開催された地域リハビリテーション（以下、地域リハ）における各団体の人材育成に関する研修会に参加しました。今回の研修会は、熊本県の補助事業で熊本県理学療法士協会が主催となり多職種による取り組み紹介が行われました。2040年以降、地域包括ケアシステムの深化や推進に向けた取り組みの強化が一層重要とされ、介護予防・日常生活支援総合事業の活用がポイントとされています。すなわち、地域リハに関わる各団体が連携して人材育成の体制を構築することが、今後も重要であると言えます。

1日目は三団体の取り組みが紹介されました。熊本県理学療法士協会では、地域リハの研鑽の機会を提供するために「座学と実地研修（スキルアップ、リカレント教育、リスキリング、社会的地位の向上のためなど）」を展開していくとのことでした。また、生涯学習制度を通じて地域保健領域に関わるPT（理学療法士）を育成していきたいとのことでした。

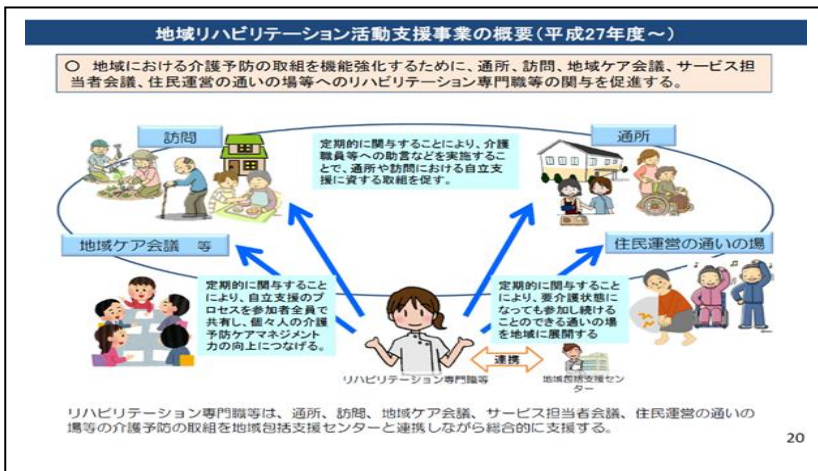
熊本県言語聴覚士会では、「地域リハビリテーション活動支援に資する人材育成事業」を行っており、ST（言語聴覚士）の経験年数が5年で、かつ日本ST協会および熊本県ST会会員であれば、必要な講義や要件を満たすことで修了書が発行されるとのことです。さらに、意思疎通支援者派遣事業（現在、八代市で実施中）では、高次脳機能障害を有する地域住民に対して支援を行い、地域社会の理解と関心を推進する取り組みが行われています。また、熊本県独自の人材育成計画もあり、対面での研修やVOD（ビデオオンデマンド）による教育体制が構築されています。

熊本県作業療法士会では、生涯学習制度や登録作業療法士、県士会独自の制度である「エキスパートOT」が紹介されました。地域リハへの直接的な業務のほか、多職種や行政に対して助言できる能力を育て、地域で必要とされるOT（作業療法士）の育成に努めていきたいとのことでした。最後に、グループワークが行われ、厚生労働省の清水真弓氏より今後の方向性について説明がありました。今後は、2040年を見据えたサービス提供に関する検討を行い、先駆的な取り組みを参考にしながら評価し、仕組み作りを行っていくとのことでした。

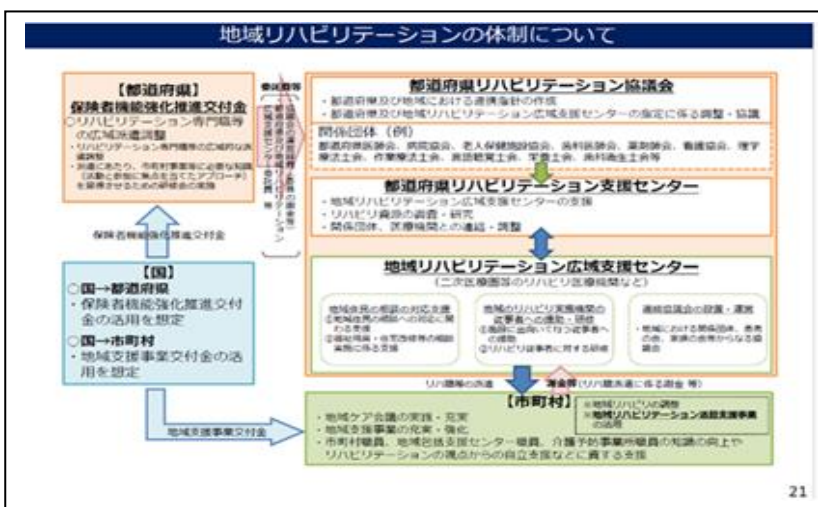
2日目は三団体の取り組みが紹介されました。熊本県歯科衛生士会は、まず会員の拡大を図り、地域と繋がる教育体制を構築していくとのことでした。熊本県栄養士会は、地域住民の日常生活の場で栄養ケアを実施・提供していく仕組み作りとして、栄養ケアステーション

の紹介がありました。栄養や食に関する相談のほか、レシピや献立の考案、料理教室等の運営を通じて地域とのつながりを構築しているとのことでした。熊本県薬剤師会からは、人材育成の取り組みとして地域に関する研修会の開催やマニュアルの活用等が紹介されました。

以上、2日間の研修会を通じて、今後はさらに専門職間の連携以上に多職種間での連携が重要になると感じました。それぞれの職種が専門性を地域や多職種に発信し、各職種の役割を明確にすることで、効果的な支援に繋がり、地域に住むすべての人々のQOL（生活の質）とノーマライゼーションの実現に寄与すると思えます。



地域リハビリテーション活動支援事業の概要  
厚生労働省 一般介護予防事業等の推進方策に関する検討会(第7回)  
資料2-1  
令和元年10月21日より



今回は密着リハセンター北部病院様にご寄稿いただきました。誠にありがとうございました。またサロンの写真掲載をお許しくださった十王元気サロンの皆様にも感謝申し上げます。もうすぐ新年度を迎えます。来年度も地域リハビリテーションを推進するため努めてまいりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。 言語聴覚士 井上理恵子